

# 「ネットカフェ難民」などのホームレスも視野に入れた活動が求められている！

藤井克彦(笹島診療所)

## ホームレスは減少した？

名古屋市は、「ホームレス」(野宿者のこと)は〇三年一月の一七八八人から〇八年一月の六〇八人へと大幅に減少したが、シェルターや自立支援センターという自立支援施策がその大きな要因であり、今後その施策を進めていく、としています。

しかし、緑政土木局がテント・小屋を撤去するために「公園適正利用指導」ということでシェルター入所を強要している現実があり、非常に問題です。また、あやしげな団体が野宿者を劣悪な宿泊所に入所させ生活保護を取らせるということも横行しており、施設入所して野宿者が減少したと喜んでるのは問題です。本来の意味でのホームレス(安定した自分の住居を持たない人々)は、減少していません(現在は急増中)。

なすべきことは野宿を余儀なくしない状況をつくり、個人の意思を尊重することです。

## ホームレス状態の派遣労働者などが急増中

厚労省は、昨年ネットカフェなどで週半分以上寝泊りする「住居喪失不安定就労者」の調査を行って、全国で約五千四百人(名古屋市内では約二百人)と推計しました。「住居喪失不安定就労者」という命名していますが、まさに本来的な意味ではホームレ

スであり、彼らも野宿となることもあるのです。

アメリカの金融危機以降の状況の中で、トヨタを始め派遣労働者の雇い止め・解雇が進行し、野宿状態になる人や福祉事務所への相談は急増し、シェルターも自立支援センターも一杯になっています。笹島診療所の相談でも派遣労働者の相談が増えています。今マスコミ各社は、「世界のトヨタ」のお膝元でのこの状況の取材に走り回っているようです。

## 課題の多い越冬闘争・越冬活動に参加を！

越冬実行委員会もこうした派遣労働者にも情報を提供しようと考えています(ネットカフェ・個室ビデオ店でのチラシまき)。問題は、彼らの心に届くメッセージが作れるかです。

一月二十八日(日)西柳公園での団結テント設置、翌日から連日の炊き出し・生活医療相談、夜回り(一月二十九日、三十一日、一月二日のみ)などを一月三日まで行い、四日に撤収しますが、彼らを受け入れることのできる態勢がつかれるだろうか。

そもそも越冬実と言っても中心はごく少人数であり、高齢化もしています。以前に比べると活動内容も大幅に手抜きとなっています。ぜひ多くの方に参加してほしいですね(寝ずの番なども大歓迎です)。以下の事前の準備・取り組みにも参加を！

・毎週火曜日七時から越冬実行委員会：

いこいの家(中村区、四五一一―三五八七)

・越冬前段集会：一月二十三日(土)六時、

つながれっと名古屋(二四一一―〇三二一)

現金・物品カンパ歓迎！

西柳公園は、昨年から三方が駐輪場となり、大変狭くなり、布団と残材は要りません。毛布は足りないので大歓迎です。食料品も必要です。

物品は、一月二十九日から一月三日に、西柳公園に持ってきてください。

現金は、

郵便振替口座：〇〇八四〇―九一一五四一

名古屋越冬実行委員会 へ。

連絡先：四五一一―四二七六(笹島日雇労働組合)、

西柳公園仮設電話：五八一―七〇〇六

